



整備が進むダム堤体工事

平成 26 年 3 月には、堤体完成予定

安定志向に偏ってきたとも  
いえます。

## メリット

畑かんの最大のメリット  
は、計画的に栽培すること  
が可能になることです。

なぜなら、近年の農業は  
契約栽培などに代表される  
ように、農産物に対する  
ニーズは、画一的でも安価  
・満腹を求める「食料」から、  
美味・安全・旬などの「質」  
を求め、変化しています。

畑かん整備により、畑か  
ん水を活用した太陽熱土壤  
消毒（※1）による連作障  
害の防止や、輪作を行うこ  
とで、消費者ニーズに合わ  
せて生産、適正な時期に確  
実に収穫して納品できま  
す。

結果、市場での競争力を  
高め、安定した出荷が可能

となり、年間を通して安定  
的な高収入が見込めます。

こうした直接的効果と作  
業の効率化による労働時間  
の短縮など、副次的なもの  
を含めると、効果は非常に  
大きく、多様性・柔軟性の  
ある農業経営の確立が可能  
となります。

## 課題

事業により農地の整備と  
いったハード面の整備は進  
むものの今後の維持管理  
や、長期間にわたる事業年  
数に起因する高齢化や後継  
者不足・担い手不足といっ  
た人材面、耕作放棄地の増  
加による周辺環境の悪化や  
農地の集積、収穫した作物  
の販売ルート確保などの  
課題も残されていることも  
事実です。

## 対処

TPPなど農業を取り巻  
く環境の変化は、肝付町に  
も影響を及ぼす事は必至で  
す。人口流出など今後の肝  
付町の農業そして町の生き  
残りにどう対処すべきなの  
か。

町では、国や県の事業の  
施策を紹介活用することと  
併せ、町独自の施策の検討・  
実施に取り組んでいます。

農業の衰退をおさえる一  
つの手段として、平成26年  
度中の農業公社設立を目指  
しています。公社での実施  
を検討している事業の一つ  
には、畑かんの水を使い野  
菜を栽培、しかもその担い  
手を新たに募集し、定住を  
促す「研修事業」もありま  
す。

これらの施策以外にも、  
今後は、畑かんを利用し、

### 通水スケジュール

地区名	通水時期	主な字	面積
第三肝付	H 28 ~ H 30	後田	143ha
第四肝付	H 35 ~ H 39	後田	70 ha
第五・六肝付	H 32 ~ H 36	前田	176 ha
第七肝付	H 29 ~ H 33	新富	102 ha
肝属中部	鹿屋市・肝付町		1,537 ha

あくまで予定です。予算配分  
状況などにより、通水時期が  
遅れる可能性はあります。  
また、所有の畑の通水時期が  
知りたい方は、問い合わせ先  
までお願いします。